

amdaimic

No. 110
August 2023

AMDA の 新たな活動に向けて

AMDA 国際医療情報センター
AMDA International Medical Information Center

月～金曜日 10:00～16:00

多言語電話医療相談 TEL 03-6233-9266

HP で問診票や医療ガイドの外国語版をダウンロード

医療通訳など事業問合せ TEL 050-3405-0397

<http://www.amdamedicalcenter.com/>

AMDA medical 検索

月～金曜日 9:00～17:00

センター東京：〒160-0021 新宿区新宿歌舞伎郵便局留 TEL 03-5285-8086 町田オフィス：〒1194-0005 東京都町田市南町田 2-1-47 TEL 042-799-3759

AMDAIMIC 通信

次世代の知恵と行動力で

AMDAIMIC 理事長
小林米幸

令和4年度末をもって長年、事務局長として勤務していた鈴木が引退、佐藤が新事務局長に就任しました。

鈴木から引退したいという相談を受けたときに、あまりにも長い時間をともにすごしてきたため、一瞬、返事ができませんでした。

鈴木には新型インフルエンザ、東日本大震災、そして3年前からの新型コロナの問題と極めて多難な時期に、事務局、現場を率いてもらいました。後を受けて事務局長となった佐藤はもともと医療職ですし、以前から短くない時間を事務局員として鈴木を支えてくれる一人でしたので何

の心配もしていません。専門職としてセンターの相談業務をさらに充実していく体制が整ったと考えています。

昨年度は将来の期待を込めて若い力を何人かスタッフとして迎えることができました。日本に押し寄せる外国人をどのように診療すべきかということについて厚労省は絵を描いており、受益者負担原則の通訳事業関係にとくに営利企業の参入が目立ってきています。営利企業ではないセンターにとっても健全経営は必要なことです。若い力の知恵と行動力で、組織の将来を切り開いていかねばならないと思っています。

経験の積み重ねを力に

AMDAIMIC 前事務局長
鈴木亮子

2004年に事務局員として入社し、主に相談業務のサポートを担当してきました。それまでも在日外国人にかかわる仕事やボランティア活動に関わってきたので、日本に多くの外国出身者が住んでいることは承知していましたが、医療専門の相談対応は初めてで、医療現場でどのようなことが受診のハードルとなるのか、一つ一つの相談から学ぶ日々を重ねてきました。どのような相談窓口でも同じ思いを共有されていると思いますが、相談ケースには一つとして同じものはありません。データとして類型化することはできても、実際に対応する内容を一括りにすることはできないのです。相談を受ける者は、一つ一つのケースを通して、学び続けていきます。

2004年からAMDA国際医療情報センターとして受けた相談件数を数えてみたら約40,000件（センター東京受電分）、同期間の受託事業では135,000件を超えていました。もちろんそのすべてに私が関わったわけではありませんが、ほとんどの記録用紙に目を通してきました。寄せていただいた相談は、スタッフすべてにとってかけがえのない記憶であり財産だと思っています。

2013年から務めてまいりました事務局長職を2023年4月から佐藤に引き継ぎました。ご支援いただきましたことに深くお礼を申し上げます。そして改めまして、これからの新しいAMDA国際医療情報センターの活動にご期待ください。

〈協力のお願い〉

AMDA国際医療情報センターは、みなさまからの会費と寄付により運営され、外国人と医療をつなぐ活動をしています。会費及び寄付金を募っています。ぜひ、ご協力お願い致します。（尚、当センターの運営は、AMDA（本部岡山）とは別会計です）

賛助会員 年会費（1年度は4月1日～3月31日）

団体 1口 20,000円/個人 1口 6,000円/学生 1口 2,000円

ジュニア（中学生以下） 1口 1,000円

団体、個人会員は半年ずつの分納が可能です。初年度のみ10月以降に加入される場合は、個人は3,000円、団体は10,000円でご入会いただけます。

振込先）郵便振替：00180-2-16503 加入者名：AMDA国際医療情報センター
銀行振込をご希望の方は、お手数ですがセンター東京までご連絡ください。

お問合せ：センター東京 TEL 03-5285-8086

amdaimic

News Letter No.110 2023年8月発行

制作・発行：特定非営利活動法人AMDA国際医療情報センター
本誌掲載の記事、写真などの無断転載を禁じます。

消化器科・外科・小児科

小林国際クリニック

Kobayashi International Clinic

小林国際医院

平日 午前 9:15～12:00
午後 2:00～5:00
土曜日 午前 9:15～午後 1:00
休診日 水、日、祝日

神奈川県大和市西鶴間 3-5-6-110 小田急江の島線鶴間駅徒歩4分
<http://5884-international-clinic.com> TEL 046-263-1380



医療法人社団 慶泉会
町田慶泉病院
旧町谷原病院

外科・内科・整形外科・肛門科・泌尿器科・血液透析センター・療養病床・回復期リハビリテーション・訪問看護ステーション

東京都町田市南町田 2-1-47

<http://www.machida-keisen.com/> TEL 042-795-1668

AMDA の新たな活動に向けて



生活している方が、母子保健分野と高齢者保健分野以外で保健師と関わることはほぼないですし、それにこしたことはありません。

今後の役割と抱負

ところで、これまでのセンターの医療相談では、すでに何らかの症状が出ている方がなるべく早期に回復できるように医療機関を案内したり、円滑に受診できるように日本の保険医療制度について理解を促したりするのが主体でした。しかし、日本に居住する外国人がますます増加している昨今では、センターに寄せられる相談も医療分野の枠を超え、保健・福祉分野にまたがるものが聞かれるようになってきています。利用できる制度や相談先の説明が必要なことがあります。言語サポートは地域により差があります。今後はそのような分野の相談や通訳も取り入れていくことでセンターの活動の幅を広げていくことができると考えています。

外国人患者の代弁者として

大学院で修士課程を修めるといふことは、学術研究に携わるといふことで



もありました。

私は、センターの役割に、日本において外国人が医療機関を受診する際にどのようなことに困るのかを外国人当事者の代弁者として世間に知ってもらうことがあると思っています。

センターへの相談をデータとして集積し、学術的な形にして保健医療関係の学会などで発表することで、困っている現状を訴えていくのに説得力を持たせることができます。そうしたアドボカシーとしての活動にも寄与できればと思っています。

医療につながる保健福祉へも活動を広げて

文 佐藤琴恵
(AMDA 国際医療情報センター事務局長)

社会の変化の中で

私がAMDA 国際医療情報センター(以下センター)で英語相談員を始めたのは2013年末からで、当時は救急外来で看護師として働いていました。

その後、自身の生活環境の変化もあり、センターに事務局員兼医療アドバイザーとして勤務することになったのが2020年初頭で、まさに新型コロナウイルス感染症が世界を席巻する前夜でした。

以降、目まぐるしく変化する国や自治体の体制に国内が混乱する中、日本語が不自由な外国人に少しでも早く安心してもらうためその時点で最善と思

われることを伝えようと悪戦苦闘する日々となりました。

保健福祉分野へのサポート

そのような中、感染症対策の要衝である保健所の存在に世間の注目が集まりました。

センターでも保健所の行う濃厚接触者の把握に関わることがあったこともあり、看護師である私はそこで働く保健師という存在が気になり、その職務内容について調べているうちに、気づいたら大学院修士二年課程の保健師養成コースを受験しておりました。そしてこの春、無事にその課程を修了し保健師資格を取得いたしました。

保健師の業務範囲は感染症対策にとどまりません。新生児の家庭訪問、定期予防接種、乳幼児健診などの母子保健事業、発達障害の早期発見、児童虐待防止対策に重点が置かれる傾向になった子育て支援事業、生活習慣病対策、がんの予防・早期発見といった成人保健事業、地域包括支援センターを中心とした高齢者保健事業、地域で暮らす精神障害をお持ちの方、あるいは難病を抱えている方を支えていく事業等に携わっています。健康で問題なく



正月のおやつノムソム

くるの?」ときくと、「きっちり包まないと、蒸す時に水が入って日持ちしないからね」といい、バナナの葉脈を割いた紐を巻いてきゅっと縛った。

ノムソムは、葉の包みから取り出し、もち米の表面をこんがり焼いてから食べる。砂糖をつけてかぶりつくと、表面はぱりっと香ばしく中はとろーり、なんともいえない美味しさだ。日本でも自分でつくったり買ったりしたが、やっぱり祖母のは絶品だと思う。

amdaimic スタッフの

おやつものがたり

第6回 カンボジア
文・ 碧

おばあちゃんの粽

正月のご馳走に食べ飽きたころ、最高に美味しい祖母の粽ノムソムが登場した。祖母は厳格な人で、幼い孫たちを容赦なくしかりつける「怖いおばあちゃん」だった。そんな祖母も、家族がそろそろ元旦だけは何をしても怒らない。帰りには、必ずバナナの葉に包まれた大きなノムソムをみんなに数本ずつ持たせたのだった。

ノムソム作りは大晦日の前日。祖母は大量のノムソムをたったひとりで作るのだ。小さな腰掛に座った祖母の前には、粽の具材が並んでいる。一晩水につけたもち米、緑豆、干しエビ、干し椎茸。塩胡椒で味をつけた豚バラ肉。祖母はバナナの葉の上に具をきれいにのせて、器用に筒状に包む。そばでじっと見ている私が「どうしてひとりで